

# 第70回 山陰眼科集談会

(日眼専門医制度生涯教育認定事業 No.59063)

## プログラム

日 時: 2026年5月24日(日)  
10時00分~13時50分

場 所: ART PARK HOTEL (旧ニューウェルシティ出雲)  
〒693-0023 出雲市塩冶有原町 2-15-1  
TEL 0853(23)7388

会 費: 参加費 3,000円  
(コメディカル・学生等 無料)

- 発表者は200~300字程度の抄録をご提出ください。
- 一般講演時間は11分(講演7分, 討論4分)です。
- 本学会は日眼専門医制度生涯教育事業の認定を受けております。  
ICカードをご持参ください。

島 根 県 眼 科 医 会  
島根大学医学部眼科学講座

－開会のあいさつ(島根県眼科医会 枘田 尚 会長)(10:00-10:05)－

一般講演 I (10:05-11:22)

(講演7分 討論4分)

座長 山根 縁 講師

(島根大学眼科学講座)

1. Clinical Characteristics of Crystalline Keratitis Based on Quantitative Lesion Analysis.

○Qiannan Li<sup>1</sup>, 古田光佑<sup>1</sup>, Garcia Inda Adan Jafet<sup>4</sup>, 中川雄次<sup>4</sup>, 綾塚祐二<sup>4</sup>,  
中山弘基<sup>2</sup>, 佐々木香る<sup>2</sup>, 上野勇太<sup>3</sup>, 米原倫子<sup>1</sup>, 大鹿哲郎<sup>3</sup>, 宮崎 大<sup>1</sup>  
(1.鳥取大学 2.関西医科大学 3.筑波大学 4.クレスコ社)

2. マイクロスポリジア角膜炎の診断に対する Real time PCR の有効性

○粟野佐智子, 清水由美子, 稲田耕大, 宮崎 大(鳥取大学)

3. Sync-RAG によるアレルギー性眼疾患診療支援の安定化

-なぜ AI 診療支援はぶれるのか?-

○宮崎 大<sup>1</sup>, 永瀬大輔<sup>1</sup>, 伴藤 諒<sup>1</sup>, 佐々木慎一<sup>1</sup>, 米原倫子<sup>1</sup>, 中川雄次<sup>2</sup>,  
綾塚祐二<sup>2</sup>, 海老原伸行<sup>3</sup>  
(1.鳥取大学 2.クレスコ社 3.順天堂大学・浦安病院)

4. iStent inject W の挿入時にトロッカーニードルの屈曲を認めた 2 例

○高木啓伍, 大谷雛瑚, 井田千紗子, 吉田悠人, 杉原一暢, 海津幸子,  
谷戸正樹(島根大学)

5. プリザーフロ術後に遅発性前房出血が見られた 1 例

○和波善愛, 大谷雛瑚, 井田千紗子, 高木啓伍, 吉田悠人, 杉原一暢,  
谷戸正樹(島根大学)

6. プリザーフロ<sup>®</sup>マイクロシャント手術に伴う早期合併症の検討

○藤原裕丈(大田市 ふじわら眼科クリニック)

7. 3 施設における PFM 全例検討

○小池みずき<sup>1,2</sup>, 内藤知子<sup>3</sup>, 三木貴子<sup>3</sup>, 庄司拓平<sup>4</sup>, 杉原一暢<sup>2</sup>,  
吉田悠人<sup>2</sup>, 高木啓伍<sup>2</sup>, 村上華奈<sup>2</sup>, 井田千紗子<sup>2</sup>, 大谷雛瑚<sup>2</sup>, 谷戸正樹<sup>2</sup>  
(1.東京女子医科大学八千代医療センター, 2.島根大学, 3.グレース眼科クリニック,  
4.小江戸眼科内科 白内障・緑内障・糖尿病クリニック)

座長 杉原 一暢 講師  
(島根大学眼科学講座)

8. 原発開放隅角緑内障患者に対するフランス海岸松樹皮・ビルベリー抽出物含有サプリメントの眼圧への影響  
○井田千紗子, 大谷雛瑚, 島田文香, 村上華奈, 小池みずき, 原野晃子, 市岡 昇, 吉田悠人, 谷戸正樹 (島根大学)
  
9. Behavioral science に基づく飲酒と眼圧の関連:大規模健診コホート研究  
○吉田悠人<sup>1</sup>, 藤野友里<sup>1</sup>, 武藤繁樹<sup>2</sup>, 朝岡 亮<sup>3</sup>, 谷戸正樹<sup>1</sup>  
(1.島根大学 2.聖隷健康診断センター 3.聖隷浜松病院 眼科)
  
10. アーメド緑内障バルブ後の異所性濾過胞に対し結膜上マットレス縫合で治療した1例  
○内藤貴之, Tommaso Bonifazi, 井田千紗子, 大谷雛瑚, 高木啓伍, 吉田悠人, 谷戸正樹(島根大学)
  
11. 当院におけるスモールチューブシャントの手術成績  
○大谷雛瑚, 井田千紗子, 藤野友里, 一ノ瀬元成, 木村樹里, 谷戸正樹  
(島根大学)
  
12. 房水産生／排出のバランスから考える内視鏡的毛様体光凝固術の適応  
○谷戸正樹 (島根大学)
  
13. 硝子体手術における新たな強膜圧迫器  
○野田雄己(松江市 野田眼科医院)

特別講演(12:45-13:45) ～ランチョン形式～

座長 谷戸 正樹 教授  
(島根大学眼科学講座)

## 眼底血管イメージングの進歩

秋山 英雄 先生

(群馬大学大学院医学系研究科脳神経病態制御学講座眼科学 教授)

1960年にフルオレセイン蛍光眼底造影が開発された時、当初に認識された臨床的意義は糖尿病網膜症の早期診断法としてのそれであった。検眼鏡所見と容易に対比しながら病変を検索することが可能になり、様々な眼底疾患の診断と治療方針の確立に寄与してきた。蛍光眼底造影は眼科診療において不可欠だが、重篤なアレルギーなどの合併症が問題とされている。それゆえ、同意書の取得や全身状態の精査などに時間がかかり、頻回に検査を行うことは困難である。一方で近年、非侵襲的に眼底血管を観察することが出来る機器の開発もあわせて行われている。2018年4月、光干渉断層血管撮影(OCT angiography)が保険収載されたのは記憶に新しい。FD-OCTの登場で3次元トモグラフィーの取得が可能になると、シグナル強度の変化している場所、すなわち血液が流れている場所を検出して、それをアンファス画像として描出するのがOCT angiographyである。造影検査のようにアレルギーのリスクがなく非侵襲的に、そして短時間に、繰り返し検査できる点が大変有利とされている。どのように眼底血管を観察することができるのか、蛍光眼底造影と比べて何が足りないのか、蛍光眼底造影にとってかわるものなのか、蛍光眼底造影では見えなかったものかわかるのか、症例提示をしながらポイントを述べていく。

—閉会のあいさつ(谷戸 正樹教授)(13:45-13:50)—